

2019年11月6日

報道関係各位

一般社団法人日本能率協会
 産業振興センター

農作物と花きの生産、加工、流通と、鳥獣害対策に関する製品・サービスが一堂に!!

「アグロ・イノベーション 2019」

「フローラル・イノベーション EXPO2019」

「第2回鳥獣対策・ジビエ利活用展」

11月20~22日の3日間、東京ビッグサイトで開催!

「草刈り・除草ワールド」「野菜・果物ワールド」も同時開催

一般社団法人日本能率協会（JMA、東京都港区・会長：中村正己）は、2019年11月20日（水）～22日（金）の3日間、東京ビッグサイトで「アグロ・イノベーション 2019」「フローラル・イノベーション EXPO 2019」「第2回鳥獣対策・ジビエ利活用展」を開催します。

スマート農業の推進に寄与する製品・サービスや農作業の省力化・軽労化を可能にする製品、ならびに鳥獣害対策製品とジビエ加工品などが多数出展されるほか、例年好評である各種セミナーも3展合わせて38本実施します。

主催者企画コーナーでは、「くくり罠、箱罠の正しい設置の仕方と安全な止め刺しを学ぼう!!」と題し、捕獲現場で実際に使用している罠や器具を用いて30～40分程度の無料ミニ講習会を実施します。また、展示会場内特設ステージでは、一般社団法人日本フードサービス協会による「ジビエ料理ライブ教室」が開催され、ジビエ調理の実演が行われます。

注目の出展製品は次ページをご覧ください。

<開催概要>

名 称	アグロ・イノベーション2019 フローラル・イノベーションEXPO2019 第2回鳥獣対策・ジビエ利活用展	https://www.jma.or.jp/ai/ja/ https://www.jma.or.jp/ai/fi/ https://www.jma.or.jp/ai/gm/
主 催	一般社団法人日本能率協会 一般社団法人日本フローラルマーケティング協会(フローラル・イノベーションEXPO)	
開催期間	2019年11月20日(水)～22日(金) 10:00～17:00	
会 場	東京ビッグサイト 西展示棟 3・4ホール	
展示規模	161社/258ブース *同時開催展含む合計/2019年10月16日現在	
同時開催	第1回草刈り・除草ワールド 野菜・果物ワールド アグリビジネス創出フェア(主催:農林水産省)	
入場料	無料 ※ただし、入場登録券もしくはWeb事前登録証の持参が必要	

【取材に関するお問い合わせ先】

一般社団法人 日本能率協会 経営企画センター広報室 担当:川村

〒105-8522東京都港区芝公園3-1-22 TEL:03-3434-8620/090-6038-4599 Mail:jmapr@jma.or.jp

※取材のお申し込みは、公式HPの「プレスの方へ」(<https://www.jma.or.jp/ai/ja/press/>)をご覧ください。

【展示会の内容に関するお問い合わせ先】

一般社団法人日本能率協会 産業振興センター 各展事務局担当:原田・中野

〒105-8522 東京都港区芝公園3-1-22 TEL: 03-3434-1988/E-mail: ai-e@jma.or.jp

主催者企画コーナーご紹介

くくり罠、箱罠の正しい設置の仕方と安全な止め刺しを学ぼう!!

◆展示会場内において、無料の「ミニ講習会」を開催します◆



くくり罠編

「正しい捕獲と設置とは?」: 約40分

箱罠編

「なぜ入る? なぜ入らない?
～入るコツ、伝授します」: 約30分

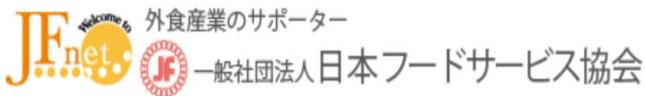
止め刺し編

「危険な止め刺し、安全な止め刺し」: 約30分

農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーで、全国各地で技術指導を行っている株式会社三生(佐賀県)の和田晴美氏による出張講座です。同社は35年以上にわたって累計7千人に技術指導を行っています。

各講習の実施時間は公式ホームページをご覧ください。

全国ジビエフェア特別イベント「ジビエ料理ライブ教室」ご紹介



(農林水産省 全国ジビエプロモーション事業)
一般社団法人日本フードサービス協会(JF)では、全国の外食店等におけるジビエの利活用と需要の拡大を目的とした、『全国ジビエフェア 2019』を2019年11月1日から2020年2月28日まで実施します。

本展示会場内にて「ジビエ料理ライブ教室」を実施します。国内を代表する外食チェーンの商品開発担当者等が調理実演等を行い、ファーストフードから居酒屋等の様々な外食店で実践できるジビエメニューのヒントを提供します。

～注目の出展製品 (一部抜粋)～

【株式会社クボタ】 ブース No. A3-29 (西3ホール)



散布用ドローン MG1-SAK

＜出展製品＞

ロボットトラクタ MR1000A、
散布用ドローン MG1-SAK、
センシングドローン、ラジコン草刈り機 ARC500 の
実機展示、営農支援システム KSAS の紹介。



アグリロボトラクタ

農業現場の課題を解決するために、クボタでは国内農機メーカーに先駆けてロボット農機や営農支援システムを開発、発売してきました。クボタのスマート農機とKSASの活用事例などのパネル展示及び動画放映のご紹介。100馬力クラスのアグリロボトラクタ MR1000A、ドローン MG1-SAK、ラジコン草刈り機の展示もあります。

【株式会社モアデバイス】 ブース No. A3-23 (西3ホール)



Biodegradable Fresh preserved
Hybrid Plastic



鮮度保持と生分解性の両機能が
地球環境を守る

＜出展製品＞

生分解性鮮度保持包装資材
アピノキーパー



ハイブリッド樹脂
アピノキーパー

青果物の鮮度を保つ「鮮度保持」と、微生物の働きによって自然に還る「生分解性」。その両機能を効率的に併せ持つハイブリッド樹脂が「アピノキーパー」です。様々なプラスチック製品に機能を追加できる添加剤のため、既存の製造ラインをそのまま使用することが可能で、わずかな添加量で効果を発揮するのでコスト上昇も抑えることができます。持続可能な発展のため国連で提唱されたSDGsに則り、「アピノキーパー」は食べられずに廃棄されるフードロスと、海洋プラスチック問題解決に貢献します。

【株式会社 WorkVision】ブース No.G3-07 (西 3 ホール)

<出展製品>

鳥獣害地域応援アプリ「.Wanna」
(実証実験中参考出品)



鳥獣被害地域応援アプリ「.Wanna(ドットワナ)」
※画面は開発中のものです

弊社はスマホをインターフェイスとして楽しみながら都市部の方が地域貢献できるサービスの仕組みを提案しました(特許出願中)。プレイヤーはアプリ内で地域に設置されている罠と連動した仮想的な「ワナ」を購入し、実際に地域で捕獲成功するとポイントを獲得、一定ポイントで地域の景品と交換できます。この売上は地域に還元され、地域の方のモチベーション向上や、さらなる鳥獣害対策の原資となります。

現在、神奈川県小田原市様、慶応義塾大学一之瀬研究室様のご協力を得ながら、この仕組みの実証実験を行っています。サービス開始は来年秋を予定しておりますが、本展示会では実証実験版の展示と同時に、その場でプレイヤーとして参加いただくことができます。また、本プロジェクトにご共感いただき、参画いただける企業様、自治体様も募集しております。お気軽にブースにお立ち寄りください。

【エゾ鹿肉の山恵/鷹栖町商工会】ブース No.G3-04 (西 3 ホール)



エゾ鹿肉の加工商品

<出展製品>

<ジビエ加工品>

- ・エゾ鹿肉の ソーセージ
- ・エゾ鹿肉の ジンギスカン
- ・エゾ鹿肉の ジャーキー など

食用としているエゾ鹿肉は、猟師に適切な捕獲・処理方法「クリーンキル」の徹底を図り、捕獲後すみやかに処理した状態の良いもののみを使用することで、脂身が白く臭みがほとんどない、柔らかい肉質が特徴の高品質な商品を提供しています。

【株式会社フロンティアインターナショナル】ブース No.G3-18 (西 3 ホール)



<出展製品>

へい死動物処理機「BioVator (バイオベーター)」
へい死した動物をコンポスト化させる機械です。



ドラム型たい肥化促進機
「バイオベーター」

ドラム型たい肥化促進機「バイオベーター (BioVator)」
鳥獣による食害が発生する中、食用として使用出来ない鳥獣は、埋設・焼却などで処理されています。その場合、処理可能な場所の確保も困難な状況も発生することがあります。そこで、安全かつ確実に、また電気代もあまりかからず、場所も取らないへい死動物を堆肥化させる「ドラム型たい肥化促進機」(商品名: BioVator) は、効率的な鳥獣処理を行うにおいて有効です。へい死動物を同機械内に投入し、ほぼ同じ体積のおが粉を投入し、タイマーを設定し、1日数回攪拌させ、約3週間後には、たい肥の一次発酵が終了します。同機の使用により、へい死動物の埋却の手間も省け、簡単に確実に堆肥の一次発酵が可能です。

11月5日現在の情報です。その他出展企業および出展製品の詳細は、
公式ホームページ「出展者・製品一覧 (Webガイド)」に掲載しています。

<https://jmacv.herokuapp.com/ai2019/webguide/search>

■アグロ・イノベーション■

11月21日(木) 11:00～12:00 (セミナー会場A／西4ホール)

『なぜ主要農作物種子法は廃止されたのか？ ～需要に応える種子生産に向けて～』

農林水産省政策統括官付穀物課 課長補佐 瀧上武士氏

平成30年4月、昭和27年の法制定から60年以上にわたって都道府県に原種・原原種の生産などを義務付けていた主要農作物種子法が廃止されました。この法律が我が国にもたらした効果を振り返りつつ、これからの日本の食と農業を見渡して、なぜ法律を廃止したのか、そして何をを目指しているのかについてご紹介します。

11月22日(金) 11:00～12:00 (セミナー会場A／西4ホール)

『年間安定供給を目指した収穫予測システムの現状と課題』

農研機構 野菜花き研究部門・野菜生産システム研究領域長 岡田邦彦氏

生鮮露地野菜を年間安定供給するための現時点における現実解は、収穫量予測に基づく出荷・調達調整です。収穫予測および周辺技術における研究開発現状と今後の展望と課題について概説します。

■フローラル・イノベーション EXPO■

11月20日(水) 11:00～12:00 (セミナー会場D／西4ホール)

『お花屋さんの花の品質管理 ～この時代にお客様から選ばれ続ける理由～』

株式会社花佳 代表取締役社長 薄木健友氏

切り花は管理次第で花持ちします。「花の水揚げ」スペシャリストが花の管理方法を伝授。お客様とのコミュニケーションにも役立ちます。

11月21日(木) 15:00～16:00 (セミナー会場D／西4ホール)

『未来につながる花業界のSDGs』

MPS ジャパン株式会社 代表取締役社長 松島義幸氏

日本花きの現状と問題そして、「輸出」を考えた時に必要な取り組み。世界の流れも含めわかりやすく解説します。

■鳥獣対策・ジビエ利活用展■

11月20日(水) 13:40～14:40 (セミナー会場C／西3ホール)

『増えるクマ・減る人間 —これからの付き合い方—』

東京農業大学 地域環境科学部 森林総合科学科 森林生態学研究室 教授 山崎晃司氏

近年、クマの分布域と個体数は、多くの地域で増えていると考えられています。背景には、数百年に渡った森林の強度の利用が終焉を迎え、クマの生息環境が回復していることと、山村での過疎や高齢化が進み人の側の活力が失われていることが挙げられます。管理や保全では、シカやイノシシと異なり人身事故を起こす動物であることから、単純な個体数管理では問題の解決を見ない点が悩ましいところです。クマの現状と今後の課題を整理します。

11月21日(木) 15:00～16:00 (セミナー会場C／西3ホール)

『野外に潜むマダニ媒介感染症の脅威 ～SFTS(重症熱性血小板減少症候群)とは？～』

国立感染症研究所 獣医科学部 部長 前田健氏

マダニは野生動物とともに生きています。野生動物の多い場所には、マダニも多く存在しています。マダニは致死率27%の感染症を持っていることがあります。野生動物の関係者はSFTSを知って、マダニ対策を行うべきです。

11月22日(金) 13:40～14:40 (セミナー会場C／西3ホール)

『有害鳥獣対策と利活用のつながり』

株式会社三生 取締役 和田晴美氏

有害捕獲された獣肉が全て食肉として活用できるのか？利活用と有害鳥獣対策をつなげるにはどのような連携をとればよいのかを、長年にわたる捕獲者育成実績と合わせ、関係機関との共同研究で見えてきた試験捕獲情報を提供いたします。